

## 1. 開催日時・出席者等

○日時： 平成31年2月19日(火)10:15~11:15

○場所： 中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室

○Pitchテーマ：高性能IoTテクノロジーによる社会貢献とテック系スタートアップ支援

○招へい者： 大原 壮太郎 ソナス株式会社 代表取締役

鮫島 昌弘 ANRI Partner

○出席者：平井国務大臣、幸田内閣府審議官、佐藤審議官（科技）、石井企画官（科技）、登内政策企画調査官（科技）、高田局長（宇宙）、八山参事官（IT）、中野参事官（知財）、中田企画官（IT）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

## 2. 大原氏からの説明

- ソナスは、東大との共同研究で開発した UNISONet と呼ばれる省電力マルチホップ無線をコア技術とする、テック系ベンチャーである。
- 与信面からなかなかソリューションの即時採用に至りづらいこともあり、今のところ UNISONet に加速度センサーを組み合わせた商品をメインに提供しており、ゼネコンを中心に導入実績が増えてきているところ。将来的には Bluetooth のような国際標準化を見据えた事業ロードマップを描いている。

## 3. 鮫島氏からの説明

- ANRI は、累計約 100 億円のファンドを運用する日本最大規模のシードファンドで、ソナスも支援先の一つである。
- 変化の速いネット系と、時間はかかる潜在的なビジネススケールが大きいテック系とをバランスした投資を行っている。テック系が盛んな本郷、ネット系の集積する渋谷にそれぞれインキュベーション施設を運営しており、両者の交流を促進している。

## 4. 主な質疑応答・議論

- 限られた資源の中で大学発シードベンチャーの競争力をつけるためには、冗長な投資ではなく、今伸びている分野・可能性のあるスタートアップに特化する「集中打ち切り型の支援」が必要では、との議論があった。
- スタートアップという特性上、与信面から大企業が購買を躊躇する 경우가多く、政府・

国・自治体等が積極的にユーザとなることで、与信の担保・売り上げベースの形成に寄与してほしい、との意見があった。実際に、J-Startup（経済産業省のスタートアップ支援プログラム）ロゴを名刺に入れることで信頼度が高まったこと等の例示があった。

- 官・大企業・スタートアップ間での連携の必要性が議論された。学生にとっての「霞が関」の心理的障壁や、大企業におけるオープンイノベーションの不活性について課題が指摘された。その上で、大学の優れた研究がビジネスに結実し、成功した卒業生が再び大学の優れた研究を支援する…というエコシステムを構築すべき、との意見があった。

（了）

（速報のため事後修正の可能性あり）